

菅政権は私達をどこに連れて行こうとしているのか 行政の私物化 国会の軽視 独裁国家への道

和歌山市 2・11 集会



和歌山県版
No.354
2021.2.15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
和歌山県本部
〒640-8343
和歌山市吉田 102
国労会館 2階

☎ FAX : 073(422)7076

<http://wakayama.exblog.jp/>
<http://6250.teacup.com/chianijihou/bbs/>
email:chian_giseisya@yahoo.co.jp

「建国の日」、和歌山市で恒例の集会が、伊藤公雄氏(前日本学術会議会員)を招いて講演会が開かれました。コロナ禍を考慮して50席を用意していたところ70余名の参加で事務局は大変でした。(写真)

講演会はリモートで講師は京都から発信、受講者はスクリーンでの対面でした。講演要旨は次のとおりです。

菅政権による学術会議の6名の任命拒否は単に菅内閣の気に入らないというだけの問題ではない。何が政府の怒りに触れたのか。学術会議の「戦争に協力しない」という2回の声明や、防衛装備庁の「軍事研究予算」「軍事・安全保障研究費への声明(異常な増額への懸念、研究成果の軍事転用への懸念)」などが背景にある。実際、武器輸出3原則(武器輸出を



認めず)から「防衛装備移転3原則」(武器輸出解禁)へと政策が変わり、「集団的自衛権の承認」と進んでいる。

政権を怒らした問題はさらに学術会議が「福島原発事故」後に出した提言や、「子供の放射線被ばく問題」「高レベル放射線廃棄物問題」などがあり、政党内部から「学術会議」をつぶせの声が出るようになった。

「学術会議」をつぶせの声が出るようになった。

学術会議の会員任命拒否は法律にも憲法にも違反している。学術会議問題はまだ国民から十分な理解を得ていないがぜひ知っていたいただきたい。安倍政権以来、国会に諮らず閣議決定や勝手な法解釈で国会(国民の声)を無視する動きが頻繁である。学術会議問題は行政の独裁に向かっている最後の段階かもしれない。これは武器を伴わないクーデターに等しい。国民主権を取り返すためには選挙で勝つしか方法はない。民主主義を守るためにがんばってほしい。

等々が多角的に語られました。講演後は、コーディネーターとして和歌山大学名誉教授藤本清二郎氏が議論を深める役割を果たされ、参加者の学習をリードされました。

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許すな

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと。

こゝろな本読んだ

桐野夏生著 『日没』

岩波書店 2020.9刊

反動が超速度で

ある作家に「総務省文化局・文化文芸倫理向上委員会」という政府機関から召喚状がとどいた。「読者からあなたの作品にクレームがついている。事情を聴きたい」とのことである。出頭するとちょっとした問答の後「療養所」に入ってもらおうという。そして思想改造、作風改造の懲罰生活が強いられる。このあたり権力のエゲツなさが読んでいてつらい。現在または近未来のお話で現実はこちらまでエゲツナクはなかりろうと思って読み終えた。

戦前は特高が治安維持法を振りかざして文芸戦線を叩き潰し、大日本言論報国会や文学報国会に組織され幸田露伴、高村光太郎、佐藤春夫、武者小路実篤ら、僕らが知っている作家や詩人たちはみんな戦争賛美の旗を振った(宮本百合子ぐらいが例外)。

桐野さんはある新聞で「作家が収容されるような国になったらいやだと思っていたが」「集団的自衛権行使容認から安保法制、そして共謀罪、国の形が短期間でかわってしまった。小説よりも現実社会の方が小説を追い越して行った」と語っている。

そして突然別ルートから現実に権力が襲ってきた。学者弾圧である。「学術会議」から権力の気に入らぬものを公然と排除を始めた。とりあえずこの6人を放り出しておけば学者たちは自粛するだろうという魂胆が丸見えである。

作家の予言の嫌な中である。

(T)



署名目標の50割に迫る

がんばる西牟婁支部

西牟婁支部は署名目標800筆に對して2月5日現在、354筆(内県本部への受取人払い封筒によるもの5通22筆)と目標の50割に迫りました。支部長と支部事務局長は4月25日に施行される田辺市議会議員選挙で重要な役割を担い、なかなか国賠活

支部のうごき

動に専念できない状態です。それでも、力持ち会員5人ががんばってくれて200筆を集めています。コロナ禍で集会での署名が困難という事情もある中での奮闘です。会員の参加はまだ30割、選挙の中ですが頑張ってもらいたいと思っています。選挙事務所でも署名用紙をおいて訴えます。選挙は必勝！署名

も離さず！とがんばります。21年度分の会費は100割完納しました。署名も目標の100割に向けてがんばります。(支部長の芝峰さん、事務局長の真砂さん談)

署名運動の現状 (2月2日現在)

次々と受取人払いの封筒が

署名用紙とチラシ、返信用封筒をしんぶん赤旗日曜版に折り込んだところ、次々と返信されてきています。1月末で、54通223筆が届けられ、11口12,000円のカンパも寄せられました。

コロナ禍で署名が難しい状況の中で、「返信」が大きな力になっています。

	署名筆数 個人/団体	内・受取人払 封筒 着分	カンパ 口/金額
橋本・伊都	130 /	14通/40筆	
那賀	327 / 6	7 / 28	
和歌山東	65 /	7 / 24	2/2000
和歌山西	76 /	5 / 16	2/2000
和歌山北	70 /	6 / 39	5/5000
海南・海草	79 /	7 / 14	
日高	7 /	0 / 0	
西牟婁	354 /	5 / 22	
県本部	138 / 3	6 / 42	2/3000
合計	1246 / 9	54 / 223	11/12千

支部集約分と受取人払い封筒による到着分(筆頭署名者の住所により支部に配分)を合算。

田辺市の選挙で会費が奮闘しています

四月18日告示、4月25日投票で行われる田辺市市長、同市議会議員選挙に、国賠同盟会員である次の各氏が奮闘しています。

- 市長予定候補 畑中正好氏(新)
- 市議会議員予定候補 久保浩二氏(現)
- 前田佳世氏(現)
- 正垣泰比古氏(新)

岩出市議選で会員2名が当選

1月24日告示された岩出市議会議員選挙で、国賠同盟会員で日本共産党から立候補された次の方が、定数と同数の立候補により無投票当選されました。

- 市来利恵氏(現)
- 増田浩二氏(現)



こだま

2021年1月に、核兵器禁止条約が発効した。世界の歴史上においても記念すべき時となるでしょう。「世界の皆さんにおめでとうといいたい。私は戦争にも、核兵器にも、原発にも、ずっと反対してきました。私たち『いのち』と相いれないからです」と、作家の瀬戸内寂聴さんが話します。◆人類が今日と将来に直面する危機は、パンデミック(感染症の世界的大流行)、気候変動、資源紛争など、米ソ冷戦よりもっと複雑な危機だということ。そこでは、核兵器は何の役にも立ちません。兵器に巨費を投じて他国を威嚇する「冷戦」の手法は通用しません。◆真の安全保障とは何か。パンデミックが示すのは、国境を越えて協力しあう必要性です。ウイルスも、気候変動も国境を越えて影響を及ぼす。◆核兵器保有国は9カ国だけで、180以上の国は持っていませんが、気候変動は生活のすべてに関係します。核問題は気候変動より解決しやすい課題です。唯一の被爆国である日本は、核兵器の被害を世界に伝える責任があります。

『犠牲者名簿』(2版から) (23)

『和歌山県の治安維持法犠牲者』(第2版) 同補記資料版から、いろいろ紹介します。

三木 勲 (みき いさお)
本籍 和歌山県有田郡田殿村(現 有田川町)

1931年11月6日の弾圧事件の検挙を逃れて、永田綜三らとともに全協日本繊維和歌山支部の再建を図っていたが、1932年4月2日、和歌山県海草郡日方町で検挙され、同年6月30日起訴される(26歳)。

違反容疑は日本共産党に入党、和歌山地区組織部の事務を行い、党、全協の文書を配布したとされる。1932年12月13日、和歌山地方裁判所で懲役3年の判決を受けるが控訴。1933年5月19日、治安維持法違反ならびに徴兵令違反により、大阪控訴院で懲役2年執行猶予4年の判決を受ける。

全協日本繊維和歌山支部所属。林三郎らとともに、全協の活動に参加し、1931年11月日本共産党に入党。京都帝国大学法学部卒業。

随想 古今集を讀んでいて 15

1月23日に若草山の山焼きがあったらしい。雨で枯草に火が付かず、「中止」でも「延期」でもなく、「終了」したという。そんなことがあるものかなと感心してしまった。

若草山西麓は「春日野」ともいった。そういえば、『古今集』に「野焼きをやめてくれ」と嘆願する歌があった。

春日野は今日はな焼きぞ
若草のつまもこもれり我もこもれり
春上(17) 読んしらす

「春日野は今日は焼かないでくれ。この野には美しい妻もこもっている。私もこもっているのだから」という歌だが、いったい若い男女が春日野にこもって何をしていたのであろうか。

「春上」に配列されていること、この歌に続いて若菜を摘む歌があることから、枯草の下で夫婦が一心不乱に若草を摘んでいるとの一説がある。

昔の学校の教師が喜ぶような味もそっけもない解釈である。

二人は人目を忍んで愛し合っていたと解釈したい。その方が牧歌的でお

もしろい。「若草の」は「つま」の枕詞なのだが、想像をたくましくすれば、女は下帯をはずしている姿が目に見え、男は慌てふためいているが、女は存外平気で開き直っているような気がする。フフツと笑ってしまう。(瀬)



俳句

県本部事務局 N生

署名への協力によせて

郵便に皆の善意春を呼ぶ
コロナ禍で我らが動き春遠し

訃報

丸本 安高さん 68歳

西牟婁支部所属、西牟婁郡白浜町在住の丸本安高さんが2021年1月22日に死去されました

謹んで哀悼の意を表します